

令和7年度 西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	77	59	48	4.8	8.7
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
理科	553
学校	553
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

令和7年度 西中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

◆全国学力・学習状況調査 結果

▶国語

平均正答率は、59%（全国54.3%、大阪府52.0%）、無回答率は、4.8%（全国6.7%、大阪府6.8%）
聞くこと・話すこと・読むこと・書くことについて、いずれも府平均以上ではあるが、聞くこと・話すことに比べ、読むこと・書くことについて優位性が見られた。

一方で、「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる」、「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるか」について表現する力に課題があることが分かった。

▶数学

平均正答率は、48%（全国48.3%、大阪府46%）、無回答率は、8.7%（全国10.6%、大阪府11.2%）
確率、グラフから必要な情報を読み取る、「連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める」問い合わせに対し、説明の空欄を埋める短答の問題であれば説明できるものもある。
一方で、素数、外角、一次関数の増加量、相対度数、といった基礎的な知識を問う問題については、23%～50%の範囲の正答率であり、基礎的な知識が身についていないことが分かった。

▶理科

平均IRTスコア（※）は、553P（全国503P、大阪府489P）、無回答率は、0.8%（全国1.8%、大阪府2.5%）
実験器具の取り扱いについては正答率が97%以上に代表されるように、全体的に基礎的な知識・技能が身についており、電気や電圧等の「エネルギー」を柱とする領域や、水や元素等の「粒子」を柱とする領域に優位性が見られた。
一方で、「地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する」、「生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する」、地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみた問題や、大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみた問題については、選択式・記述式の問題とも正答率が低く、課題であることが分かった。
全体的には、選択式・短答式の問い合わせの正答率が高く、記述式の問い合わせの正答率が低い傾向であることが分かった。

※IRTスコアとは…項目反応理論（Item Response Theory）という統計的なテスト理論に基づいて算出される能力を測るためのスコア。500を基準とする。

▶生徒質問紙調査より 全国・大阪府との比較

「朝食を毎日食べていますか？」については、あまり差はなかった。

●全国と比べて6ポイント以上高い項目

「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか？」
「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか？」
「学校に行くのは楽しいと思いますか？」
「読書は好きですか？」
「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれていると思いますか？」
→ 18.8ポイント高い

●全国と比べて6ポイント以上低い項目

「将来の夢や目標を持っていますか？」
「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができますか？」
「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字・コメントを書くなど）ことができると思いますか？」
「あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか？」
「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか？」

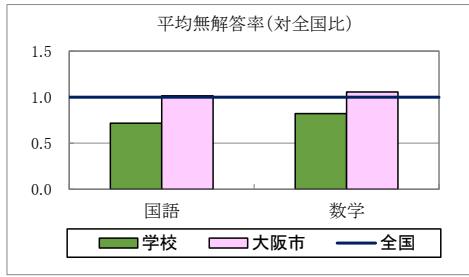
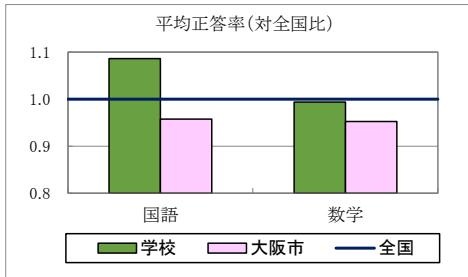
**令和7年度 西中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【全 体】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	59	48
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

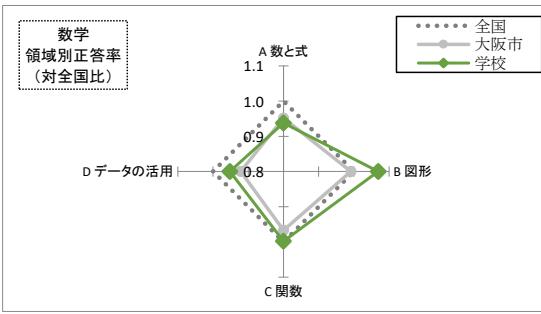
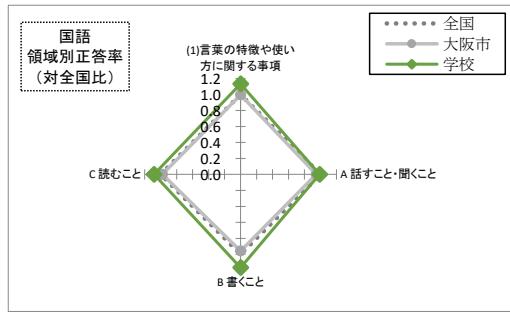
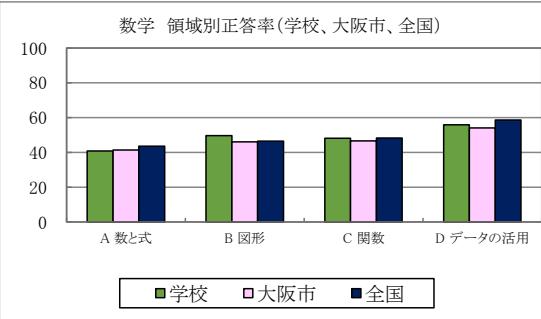
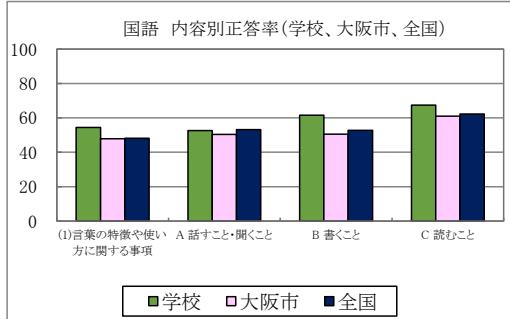
平均無解答率(%)	
国語	数学
4.8	8.7
6.8	11.2
6.7	10.6



【国 語】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	54.5	47.9	48.1
(2)情報の扱い方にに関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	52.6	50.4	53.2
B 書くこと	5	61.6	50.6	52.8
C 読むこと	3	67.5	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	40.8	41.4	43.5
B 図形	4	49.7	46.1	46.5
C 関数	3	48.1	46.6	48.2
D データの活用	3	55.8	54.0	58.6

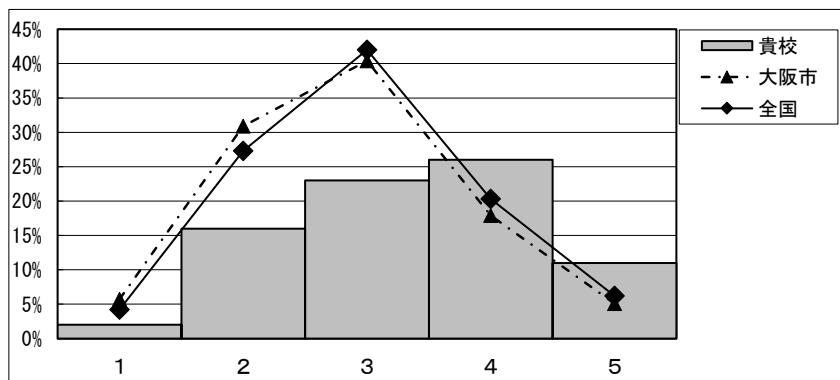
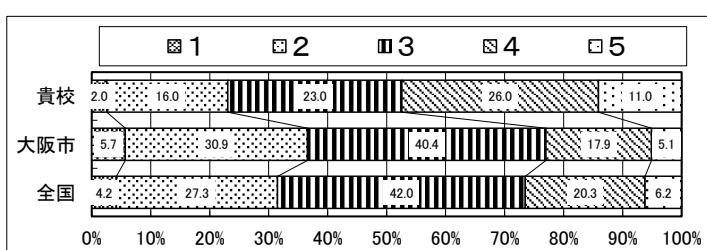


令和7年度 西中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	553
大阪市	489
全国	503



令和7年度 西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

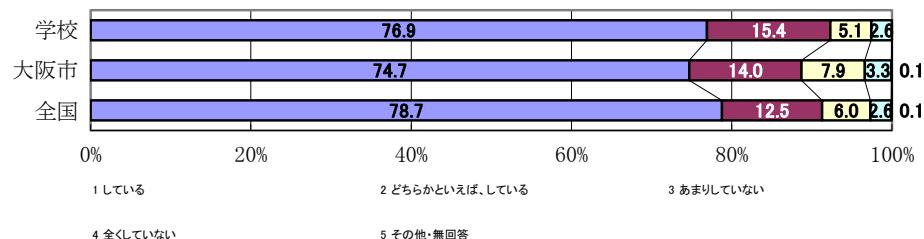
生徒質問より

■ 1 ■ 2 □ 3 □ 4 □ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8

質問番号
質問事項

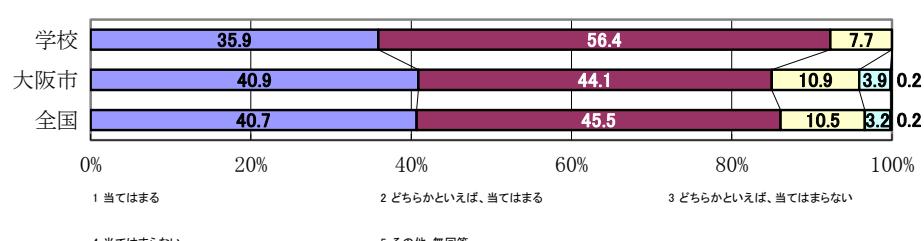
1

朝食を毎日食べていますか



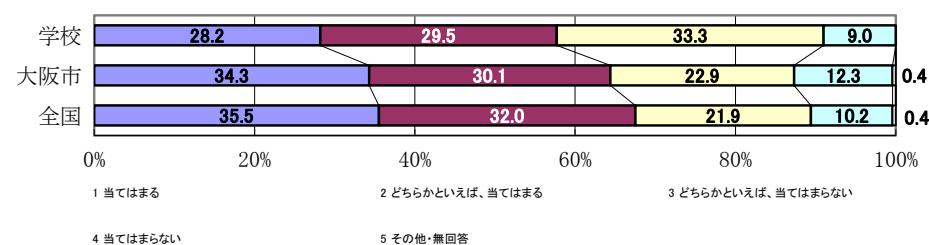
5

自分には、よいところがあると思いますか



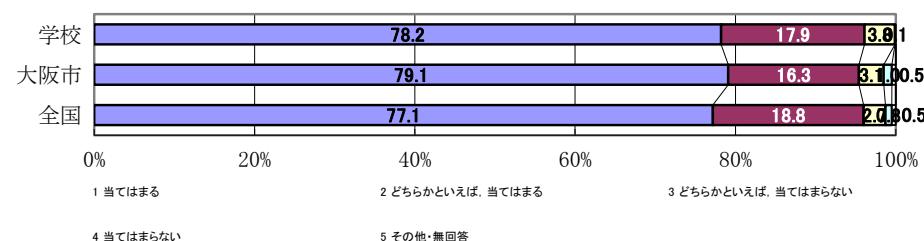
7

将来の夢や目標を持っていますか



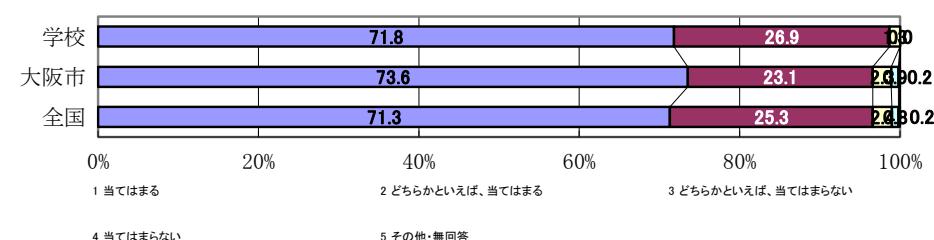
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



令和7年度 西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

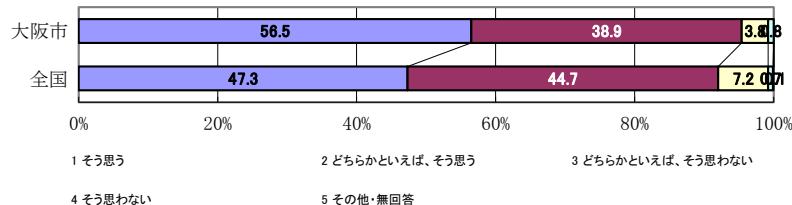
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

8

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

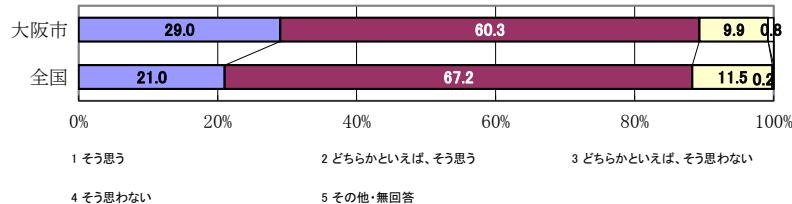
学校 「そう思う」を選択



25

調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

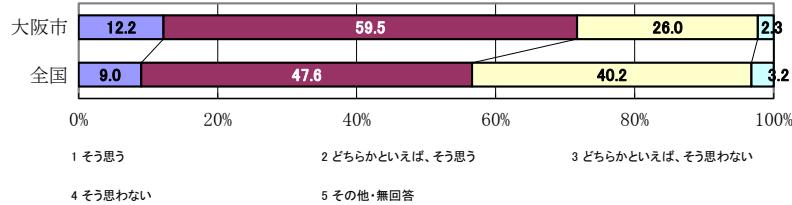
学校 「そう思う」を選択



29

調査対象学年の生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っているだと思いますか

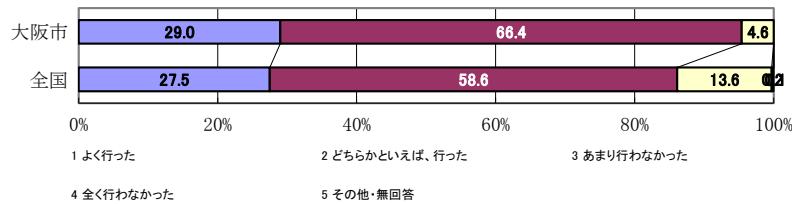
学校 「どちらかといえば、そう思わない」を選択



32

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



60

調査対象学年の生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「週3回以上」を選択

